

『下流老人：一億総老後崩壊の衝撃』 藤田孝典（朝日新書、2015. 6）（5）制度と政策の問題点
 「その論点のまとめと可視化（「札寄せツール」による図示）」（中川 徹、2015. 12.15）

第5章 制度疲労と無策が生む下流老人 — 個人に依存する政府

本章では、日本の各種社会保障や社会システムを、下流老人の問題から検証する。

→ 論理的な関係(原因→結果など)
 ← 解決策

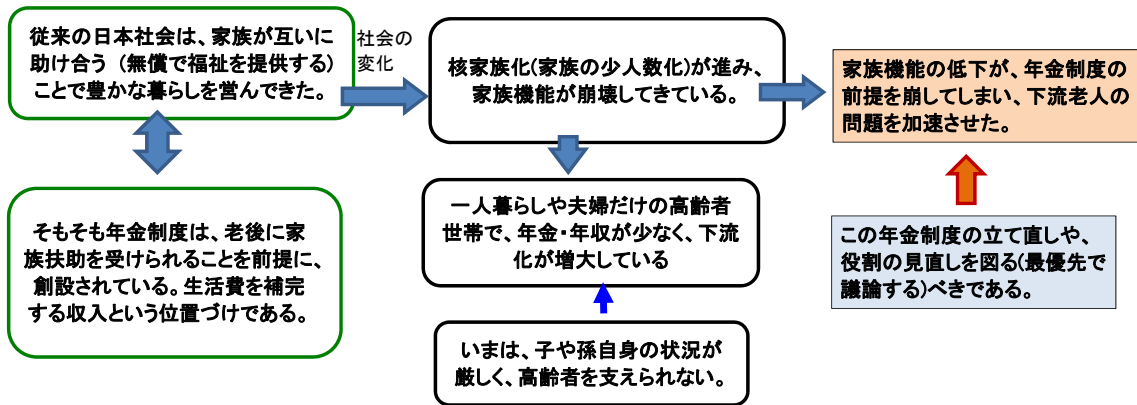
論点： 現制度が下流老人をどのように支援し、どれだけ寄与し、どんな不備があるか？

総括： 現在の社会システムが下流老人を生み出しており、その社会福祉制度は下流老人の救済にあまり寄与できていない

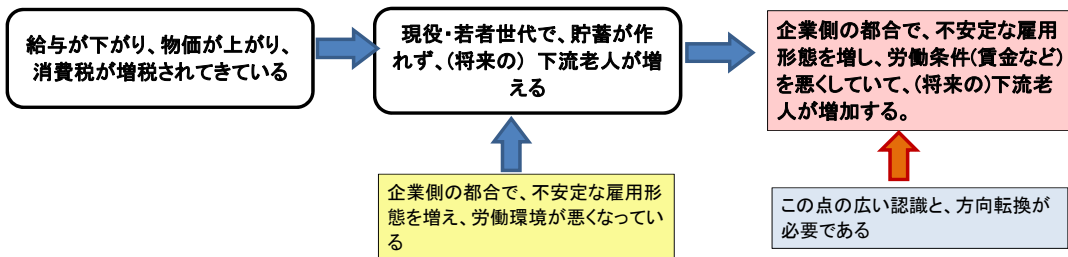
考察： 根本問題： 現在は「経済優先・弱者切り捨て」の原則に基づいた社会システム／政策であり、その下では下流老人の問題を簡単には改善できない

以下に8つの視点から検証する。

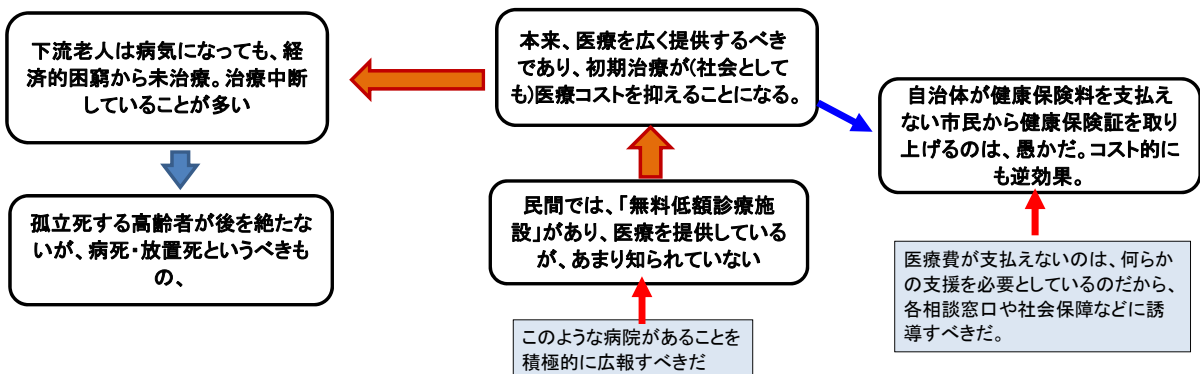
(1) 収入面の不備 — 家族制度を前提とした年金制度の崩壊



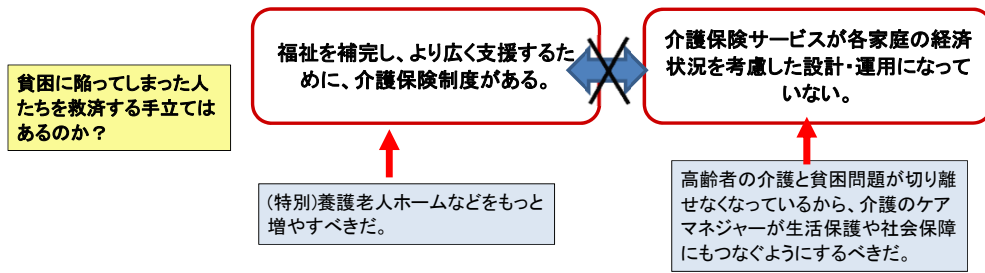
(2) 貯蓄・資産面の不備 — 下がる給与と上がる物価



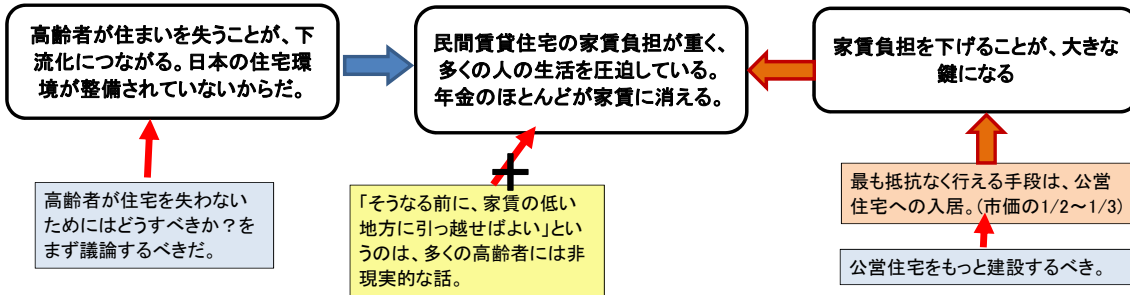
(3) 医療の不備 — “医療難民”が招く孤立死



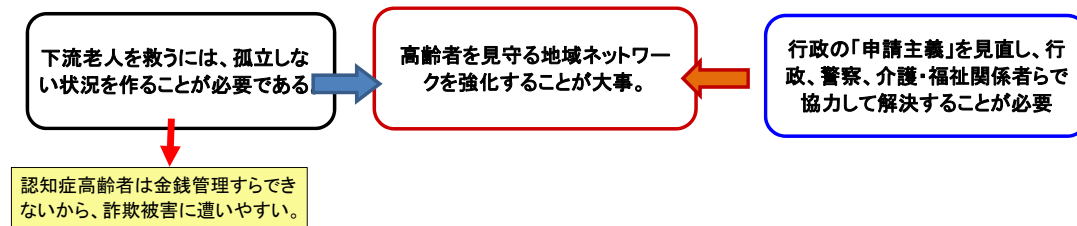
(4) 介護保険の不備 - 下流老人を救えない福祉制度、ケアマネジャー



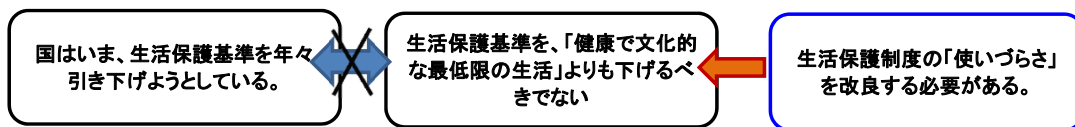
(5) 住宅の不備 - 住まいを失う高齢者



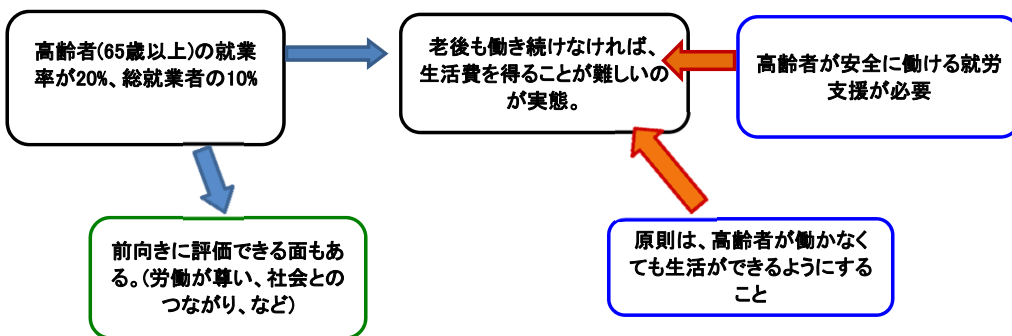
(6) 関係性・つながり構築の不備 - 助けの届かない



(7) 生活保護の不備 - 国によって操作される貧困の定義



(8) 労働・就労支援の不備 - 死ぬ直前まで働かないと暮らせない!?



(コラム3) 下流老人の生き血を吸う「貧困ビジネス」

